

闇の子供たち

2008(平成20)年5月2日鑑賞〈角川映画試写室〉

★★★★★



監督・脚本＝阪本順治／原作＝梁石日『闇の子供たち』（幻冬舎文庫刊）／出演＝江口洋介／宮崎あおい／妻夫木聡／佐藤浩市／鈴木砂羽／豊原功補／プラバドン・スワンバン／プライマー・ラッチャタ（ゴー・シネマ配給／2008年日本映画／138分）

……今、日本ではお気軽な「出会い系サイト」の危険がいっぱい！ しかし、タイにおける人身売買、幼児売春そして生きた人間の臓器提供による臓器移植の実態は……？ 映画化困難と言われたそんな梁石日の原作が、阪本順治監督によって今私たちの目の前に！ こんなテーマには、したり顔での正解はもちろん、あるべき解決策もなし。それほど闇の世界に生きる闇の子供たちは、私たちから遠い存在だ。しかし、それと向き合う2人の主人公の生きざまを直視する中で、私たちが学べる何かがあるのでは……？



梁石日の「特別な作品」が、阪本順治監督の手によって！

はじめて試写の案内を見たとき、この映画の原作が梁石日の『闇の子供たち』であることを私は全く知らなかった。しかし、タイにおける人身売買と臓器移植問題を真正面から見据えた問題作を阪本順治監督が映画化したものだと知って、これは絶対観なければと考えていたもの。

鑑賞後プレスシートを読むと、梁石日は「私の小説はこれまで三作映画化されている。しかし、『闇の子供たち』の映画化は難しいと思っていた」と書いている。その理由は、「内容がハードで、日本映画にはそぐわないのではないかと考えていた」からだ。「しかし、阪本順治監督は果敢に挑戦し、困難な状況を乗り越えて映画化を実現したのである。その勇気と問題意識の高さに敬意を表したい」と彼は阪本順治監督を絶賛しているが、それは私も全く同感。

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

まず、冒頭の女の子の名前をしっかりと！

この映画には江口洋介、宮崎あおい、妻夫木聡、佐藤浩市という4人のビッグネームが登場するが、ホントの主演はタイの子役たち！ そんな阪本順治監督のこだわりが、冒頭のシーンとラストのシーンに端的に表現されている。

映画の冒頭、クローズアップで映されるのは大きな瞳のかわいい女の子の顔だが、顔のあちこちには発疹（脂漏性皮膚炎）の症状が！ こりゃエイズに感染していること明らかだ。そして少しカメラが引くと、そこはたくさんの子供たちが閉じ込められている檻の中。彼ら彼女らはここで、ペドファイル（幼児性愛者）の外国人客からのご指名をじっと待っているわけだ。しかし、明らかにエイズの症状が出ているこの少女ヤイルーンはもはや用済み。すると、そんな彼女の運命は……？

あと2人の女の子の名前も……

他方、映画のラストには、川の中で無邪気に水遊びをしている2人の少女が登場する。その1人がヤイルーンで、もう1人は彼女が時々口にしていた妹のセンラー。しかし、このセンラーは、生きたまま心臓移植のためのドナーにさせられるという最も過酷な立場に置かれる少女。そんな悲惨なヤイルーンとセンラー姉妹にも一瞬こんな幸せがあったのだろうか……？ 厳しいオーディションの中で選ばれた(?) タイ人の子役たちで、もう1人名前を覚えてほしい少女がアランヤー。彼女は読み書きを学ぶためバンコクのNGO組織に出入りしていたが、最近はメッキリ姿を見せなくなっていた。そこで女性所長のナパポーン（プライマー・ラッチャタ）たちがアランヤーの家を訪れて親に聞いていただしてみると、「娘は仕事が忙しいから勉強にいくヒマがない」との答え。しかし、それにしても姿が全然見えないのはおかしいのでは……？ 売春宿に閉じ込められ、否応なく客を取らされていたアランヤーは、ある日客からペンを借りて勇気ある行動に出たが……。

対照的な2つのスタンス その1——南部記者

江口洋介演ずる主人公南部浩行は、日本新聞社バンコク支局の記者として、今タイのバンコクである取材を敢行中。東京本社社会部からの情報では、近く日本人の子供がタイに渡り、臓器移植手術を受けるらしい。カネを握らせてヤミ社会の事情通の現

地人から得た情報によって、南部はやっと臓器密売の元仲介者に直接接触することができた。もちろん、闇の組織の目を盗んでのものだから、こんな接触がマフィアにバレたら大変。これによって南部は、臓器提供者の子供が生まれたまま心臓をえぐり取られているという衝撃の情報を入手したから大変だ。南部は早速東京本社に連絡をして、なお取材を続けるかどうかを確認したが、本社の方針はもちろんゴー。闇ルートの取材のためには闇の取材費も相当必要だが、それも許容してくれそう。

ジャーナリスト魂に火がついた彼は、もはや後に引けないとばかりに以降危険な取材にのめりこんでいくのだが、私が思うにその問題点は2つ。第1は、金をつかませる違法スレスレの南部の取材はどこまで許されるのかということ。そして第2は、南部の突撃取材は本当に記者魂によるもの？ それとも何か個人的な動機があるの？ ということ。この映画はいかにも阪本順治監督作品らしい「衝撃のラスト」を用意しているから、最初から居眠りなどせず、しっかりと南部の取材姿勢を見ておいてほしいもの。



対照的な2つのスタンス その2——NGOの女性

若者たちは「自分さがしの旅」が大好き。それは昔も今も同じだが、将来への希望が見えにくくなっている今は、それがなお一層さかん……？ もっとも私に言わせれば、そもそも「自分」をもっていなければ、いくら自分さがしの旅をしても何も見つけることができないのは当然。したがって、自分さがしの旅に出る前に、まず何でもいいから内容のある自分をつくる努力をすることが先決では……？

宮崎あおい扮する日本人女性音羽恵子をみていると、ついそう思ってしまう。東京の大学で社会福祉を学んだ彼女は、アジアの子供たちのために何かをしたいとの思いで、学生時代に短期滞在した経験のあるタイのNGO活動にボランティアとして参加してきた女性。しかし私が見るに、彼女のスタンスは要するに理念論、理想論で、その主張の多くは机上の空論。したがって、ナパポーン所長らと共にスラム街の視察に同行し、姿が見えなくなったアランヤーが売春宿に閉じ込められているらしいと知った彼女の意見や行動は、あまりにも単純。そしてそれは、生きたまま心臓提供を強要される少女についての情報を得たため、ナパポーン所長の指示によって東京に戻り、南部らと行動を共にした時の恵子の発言をみても同じだ。

直情的で向こうみず、そして一方的な意見の押しつけと私には思えるのだが、他方

そんな若者らしい純真さが世の中を動かしていくこともあるはず。現に私たちの学生時代の活動もこの恵子と同じようなもの……？ しかし、南部には衝撃のラストシーンが待っているのに対し、「自分に言い訳したくない」と宣言する恵子は、自分さがしの旅を完結することができるのだろうか……？

静かな中にも、実のある議論が……

この映画中盤のハイライトは、商社マン梶川克仁（佐藤浩市）およびその妻みね子（鈴木砂羽）と、南部および恵子との心臓移植をめぐる議論。梶川夫妻の息子は一刻も早く心臓移植の手術を受けなければならないため、ワラをもつかむ思いでタイでの心臓移植手術にふみ切ったもの。もちろん、莫大な費用がかかるがそれはやむをえないし、西欧での正規のルートを待っていたのでは子供の命がもたないことは明らかに。そんな苦渋の決断をした梶川の妻に対して南部が「取材を拒否すれば一方的に名前を公表しますよ」と言って取材に応じさせたのは、脅迫めいたものだったが、南部の取材姿勢はあくまで紳士的……？ ところが恵子の方は、「この手術によってタイの少女の命が奪われる。だから、この手術を中止して下さい」という一方的なもの。さらにタイ人の少女の立場からのみ物事を見ている恵子は、「人の命をお金で買うんですか！」とまで大きな声で……。

これを聞いた梶川が南部に対し、「これは取材じゃないんですか！」と抗議したのは当然。家の中まで押しかけられ、違う立場からの違う意見を一方的に主張されたのではたまったものではない。「あなたは私たちの息子に死ねと言うんですか。あなたにそんな権利があるんですか」と涙ながらに妻は反撃したが……。もちろん、こんな議論はどちらが正しく、どちらがまちがいのものではないが、さてあなたはどちらに軍配を……？ 私は妻の方に軍配を上げたいが……。

こんな若者も

恵子は世の中をまっすぐ見据えて生きていこうとする若者だが、もう1人のビッグネーム妻夫木聡扮するフリーカメラマンの与田博明は、軟弱でいい加減という、いかにも今風の若者……？ 彼がなぜタイにきているのか？ 南部が彼とどこでどんな縁で出会ったのか？ また、彼がなぜ南部の心臓移植手術の取材のカメラマンの仕事をやることになったのか？ などについては、あなた自身の目で確認してもらいたい。

ここでも面白いのは、こんな経験によってあんなに軽かった与田の生き方が大きく変わっていくところ。つまり、与田は意識的に自分さがしの旅をしていなかったけれども、南部と出会い仕事と向き合う南部のスタンスを間近に見る中で、自分の中にある何かを発見したわけだ。もっとも、決定的瞬間をカメラに収められるかどうかは、実力と共に運にも左右されるもの。さて、彼の撮影したカメラの中にはどんな映像が……？

マフィアの手は着々と

この映画の売春宿の風景はかなりリアル。また、数人登場するペドファイル（幼児性愛者）癖のある西欧人の役者もかなりリアル。こんなシーンを撮影するのは大変だと思うが、さすがそこは阪本順治監督だ。

マフィアの若者として登場し、唯一人役名と俳優名のわかるタイ人が、チット役のブラパドン・スワンバン。そして、彼のバックにあるマフィアの組織はかなり巨大そう。アランヤーを働かせていた売春宿は NGO からの貴重な情報提供のおかげで最終的には摘発されることになるが、私思うに、これは映画なればこそそのストーリー。現実にはこんな売春宿が摘発される可能性はほとんどないのでは……？ これは私が02年4月25日～29日タイ旅行した時の正直な感覚。

他方、ナパポーン所長らの「嗅ぎ回り活動」に対しては、ある日明白な報復が。さらに、カメラマンとして仕事をするのが決まった与田と一緒に南部がしたたかに飲んだ夜には、「これ以上取材を続ければ、命はないぞ」という拳銃を示した南部に対するはっきりとした警告も……。このように、マフィアの手は着々と伸びていたから、これから先へ突っ込んでいくのは命の危険を伴うもの。そんな中で示される南部と与田の生きざまは……？

映画の結末は……？ 他方、現実……？

この映画は2時間を超える大作だが、決して飽きることなくさまざまな問題提起にぐいぐいと引き込まれていくはず。また、それらの問題提起につき、映画なればこそそのそれなりの展開が続き、それなりの結末へと導いていく。すなわち、南部はあんな警告にもかかわらず、それを無視してそれ以上の取材に突っ込むことになるが、これは映画なればこそ……？ また NGO のナパポーン所長は命懸けの集会を企画して、

結果的に警察力によって売春宿を摘発することに大成功するが、これも映画なればこそ。そしてまた、南部たちの取材にもかかわらず、きっとセンラーの命を犠牲にした心臓移植手術は実施されることだろう。他方、恵子はこの経験によって新たなスタートラインに立ったのに対し、前述したように南部にはあっと驚く結末が待っているから、それをお見逃しなく！

このように、この映画が示す結末に注目だが、さて現実……？ 私が思うに、記者クラブ制に飼い馴らされてしまっている今ドキの記者たちや、キレイ事しかやれないNGO組織では、ここまでの行動力はととてもとても、と心配しているが……。

2008(平成20)年5月3日記

第3章

傑作・佳作がいっぱい！

赤裸々な問題提起をしっかりと！

今年の日本の夏は暑い
が、タイはもっと暑い。
問題の根深さ問題提起
の鋭さでそれを実感させ
てくれるのが、梁石日原
作、阪本順治監督の熱い
映画。カメラは冒頭かわ
い少女を映し出すが、
その顔にはエイズの発症
を示す脂漏性皮膚炎の発
疹が。幼児性愛者の外国
人客からの指名を待つこ

んな檻の中の子供たちの
存在にまずショックを受
ける。
主人公は社命を超え命
を賭して臓器密売の闇組
織を追う新聞記者南部
(江口洋介)。タイのN
GOで働く恵子(宮崎あ
おい)の協力(暴走?)
の中で暴かれていくタイ
の貧困、幼児売春、人身
売買の実態はまさに衝

撃。
他方、最愛の息子の命
を闇ルートでの臓器移植
に託す相川夫婦(佐藤浩
市、鈴木砂羽)も必死。
恵子との「人の命をお金
で買うのか」VS「息子に
死ね」と言う権利があるの
か「論争の軍配はどちら
に？」
映画中盤は命懸けの潜
入取材、マフィアによる

な問題提起を真剣に受け
止めたい。
記者クラブ制度に飼い
ならされた新聞記者、キ
レイ事しかできないNG
O組織さらには格差た
「貧困だ」と文句ばかりの
日本人は、こんな闇の子
供たちを直視し、自分た
ちの生きざまを見直すべ
きでは。



「闇の子供たち」

きょうからテアトル梅田で公開



©2008映画「闇の子供たち」製作委員会

NGOへの圧力、南部へ
の露骨な警告と手に汗を
握る展開で飽きさせない
上、アツと驚く結末が待
っている。救われるのは
妻夫木聡くんする軟弱で
能天気なフリーカメラマ
ン与田が、取材の中で自
立し再生していくこと。
彼のカメラの中には一体
どんな衝撃的な映像が？
ラストに映る無邪気に
水遊びをする二人の少女
の姿が心に残る。彼女た
ちの過酷な運命に私たち
はどのようにかかわり合
えるのだろうか？ そんな

大阪日日新聞 2008(平成20)年8月2日